



自己管理

患者さんの支援



データ収集



スマートフォン

収集データ※1

- ・加速度情報
- ・移動情報
- ・健康状態※2

FDML
による
データ
送信

疾患活動性情報

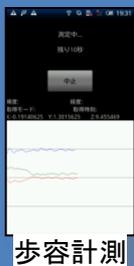
- ・歩容
- ・活動状況
- ・健康状態



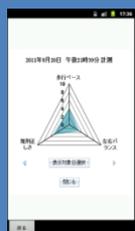
閲覧用端末



体調入力



歩容計測



歩容解析結果



サーバ



疾患活動性情報閲覧

- ※1 収集データには、個人を特定できる情報は含まれておりません。
- ※2 健康状態とは、患者さんが入力する関節の腫れや痛みの箇所・程度、体調、日常生活の困難さ、活動範囲などのことです。

図1 システム概観



京都大学
KYOTO UNIVERSITY

リウマチセンター

- 病状のモニタリング
- 血液データ管理
- 疾患活動性評価
- 服薬調節
- 生活指導

人間健康科学科

- 歩容解析
- セルフケア検証
- 活動性検証

医療情報部

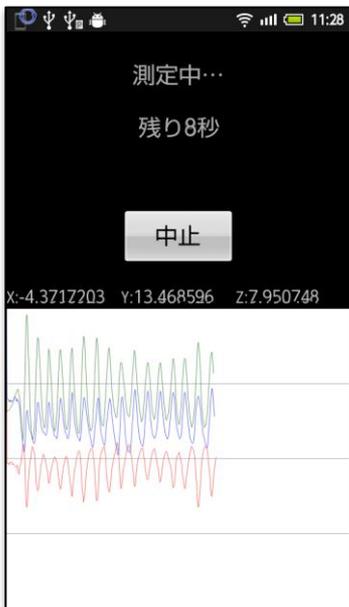
- 診療情報ハンドリング
- データベース管理
- アプリ開発補助



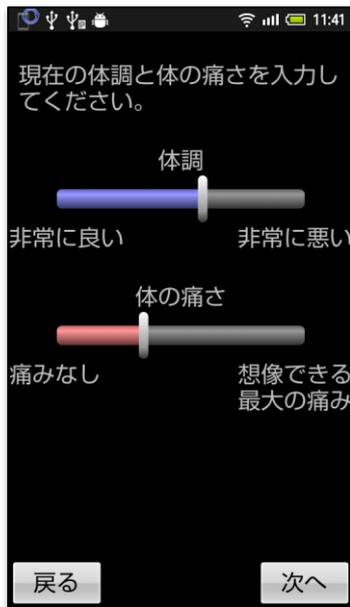
NTTサイバーソリューション研究所

- センサデータ処理に関する研究
- 歩容解析アルゴリズム開発
- スマートフォンアプリケーション開発
- サーバソフトウェア開発

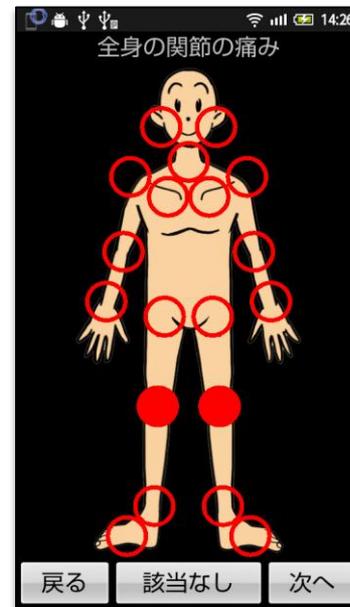
図2 体制と役割分担



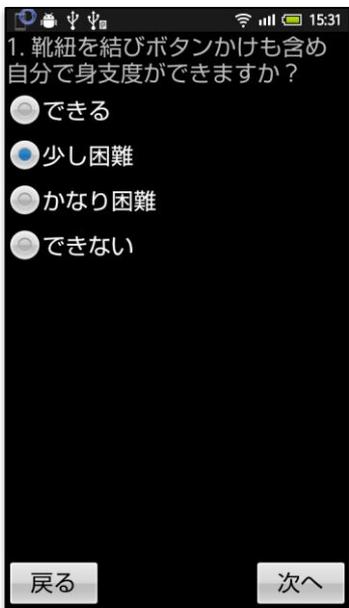
歩容計測



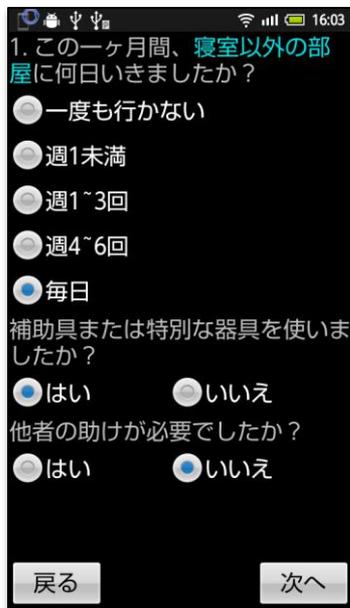
健康状態入力



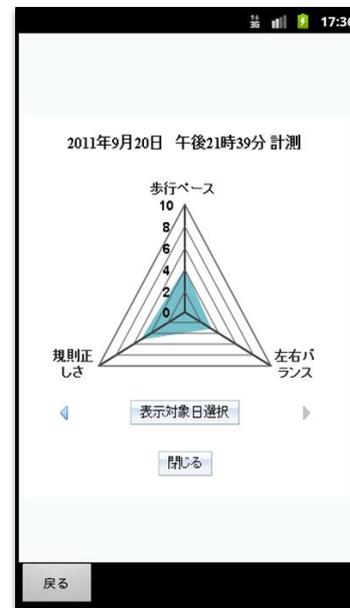
関節の痛み入力



ADL入力

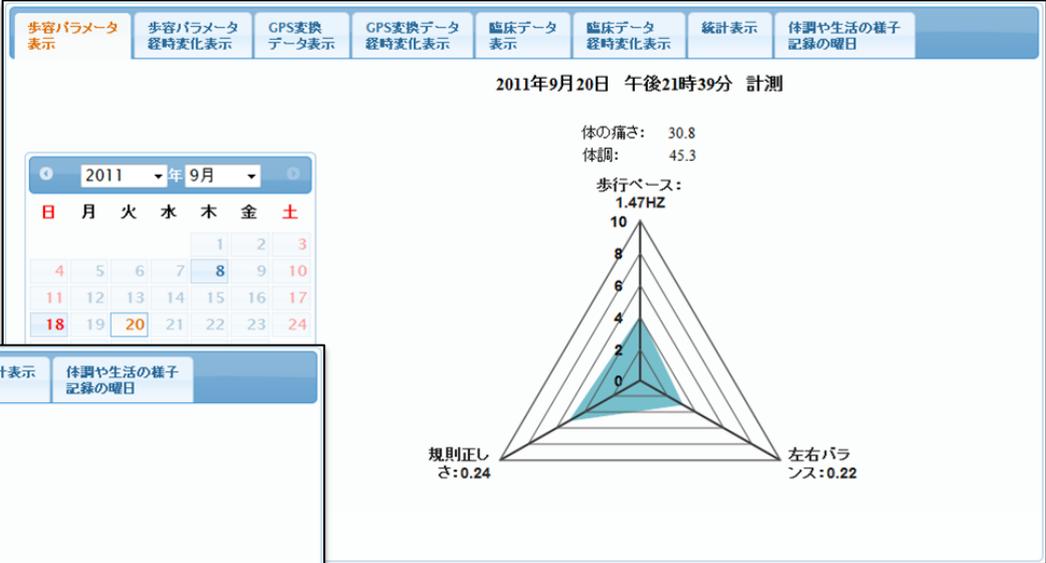


生活空間入力

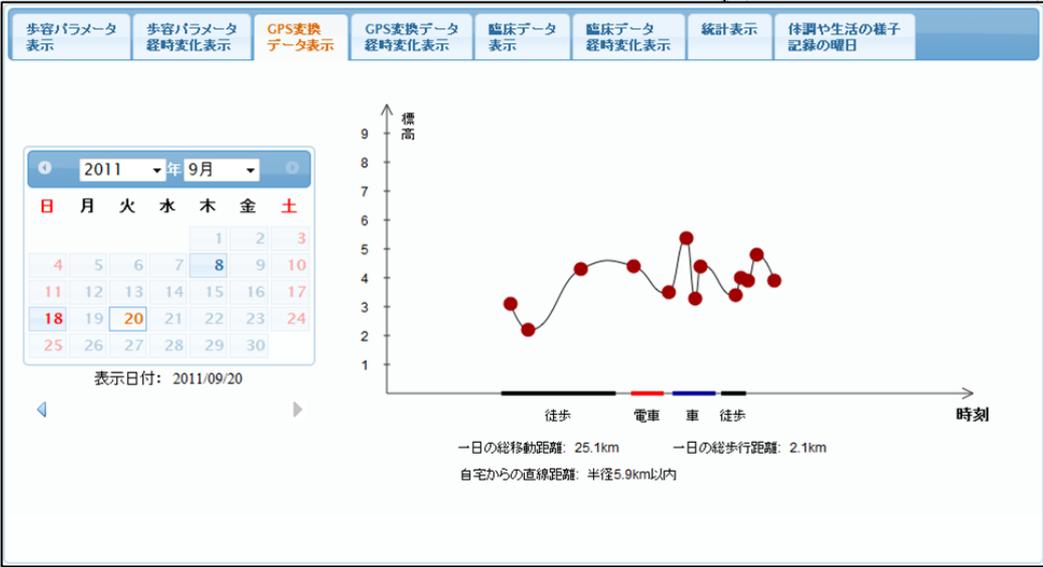


歩容解析結果表示

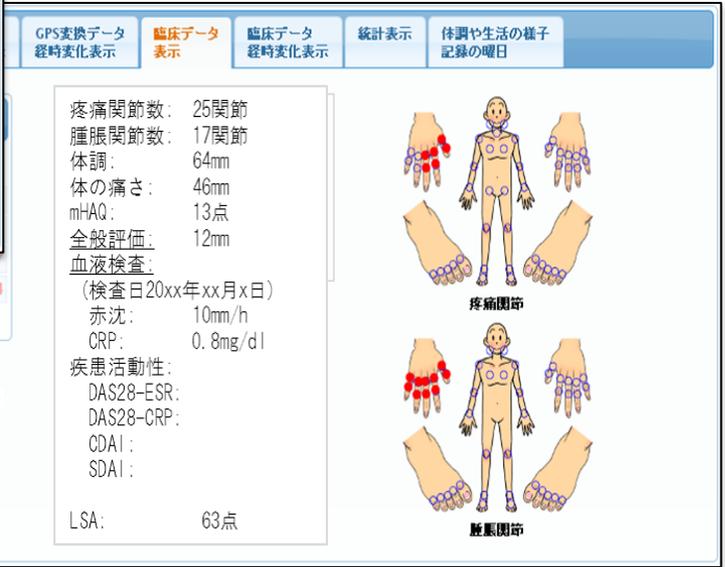
図3.1 患者さん用画面例



歩容解析結果表示



移動履歴表示



臨床データ表示

図3.2 医療従事者用画面例